

はぐくみ

安城中部小学校 学校通信

令和7年 6月号 5月27日



おかげさまで

安城中部小学校長 稲留 雄一

今年もミニ明治用水にザリガニたちが姿を見せ始めました。子どもたちは水面をのぞき込みながら、ザリガニを探しています。捕まえたザリガニを見せに来てくれる男の子。私の後ろに半分隠れながらそれをのぞき込む1年生の女の子。恐る恐る「さわっていい？」と言。男の子はザリガニのはさみが女の子に届かないようにつかみなおして、ゆっくり差し出しました。指先で触れた女の子は、触った瞬間後ろにぴょんと一歩跳び下がりました。ザリガニのような俊敏な動きでした。



教室ではカナヘビやチョウの幼虫、まもなく羽化するであろうサナギが子どもたちと一緒に授業を受けています。ヤモリが同席しているクラスもあります。小さな生き物たちは、毎年忘れずに子どもたちに会いに来てくれます。身近な自然と触れ合えることで、生き物を慈しむ心や命の大切さ、はかなさも学びとっていることでしょう。小さな生き物たちのおかげで子どもたちは貴重な経験をし、成長しています。

私たち教師にとっては、何度目かの学年担任。しかし、子どもたちにとってはかけがえのないこの一年。そして今日という日を過ごしています。私たちは子どもたちのおかげで教師としての経験を積み、視野を広げ教師として成長させてもらっています。

「校長先生、今日もお元気ですね。」「おかげさまで。」よく考えると、誰のおかげなのか、特定の人や物に対する言葉ではないのですが、間違いなく感謝の言葉ではあります。自分の周りには、日ごろから気づきにくい誰かの「おかげ」で満ちているのではないのでしょうか。もしかしたら、私たちも誰かの「おかげ」になれているのかもしれないかもしれません。できればそんな存在になりたいと思います。

子どもたちがいてくれるから、私たちは教師としてのキャリアを重ねることができます。その昔、私の子どもがまだ幼いころ、「子どもの年齢分だけ親としての経験をさせてもらっていることに感謝の気持ちをもつことが大切です。」と伺いました。時には腹が立つこともあります（「時には」では済まなかったような気もしますが）、子どものおかげで親をやらせてもらえているということに気づかせてもらいました。

新しい学年がスタートして2か月が過ぎようとしています。子どもたちの成長は目に見えないほどほんのわずかです。成長したかと思えばすぐに元に戻ってしまうこともあります。でも、確実に子どもなりの経験を積み成長してくれています。3月になり、子どもたちがそれぞれの学級を巣立っていくとき、どんな言葉で送り出すのか。そんなことを考えながら、担任も子どもたちとともに成長させてもらっています。

いろいろな「おかげ」に囲まれて、子どもたちも、私たち大人も笑顔で過ごせるようにしていきたいものです。そうすることで、学校生活も家庭生活も明るく豊かになっていくと信じています。厳しい夏はもうすぐそこまで来ています。